

## 地域密着型金融推進計画の進捗状況

平成 18 年 5 月  
朝日信用金庫

当金庫では「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム(平成 17～18 年度)」に基づき、平成 18 年度までの「重点期間」内における「地域密着型金融推進計画」を平成 17 年 8 月に策定しました。

経営理念である『ベストコミュニティバンク』・『街の鼓動に敏感です』をスローガンに日々努力しておりますが、ここに 17 年 4 月から 18 年 3 月まで 1 年間の進捗状況がまとまりましたのでお知らせいたします。

### 対象期間

平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日

#### 1. 『事業再生・中小企業金融の円滑化』に関する進捗状況

##### (1) 創業・新事業支援機能等の強化

本活動を強化するため、平成 16 年 4 月に産学官連携組織である「コラボ産学官」を設立いたしました。産学連携活動を全国に展開させるべく全国の信用金庫に参加への働きかけを行いました。この結果、昨年 10 月には青森支部が、本年 3 月には埼玉支部の開設に至りました。さらに活動を成果に結びつけるために必要な会員数の増加については、当金庫のお取引先で 18 年 3 月末現在 167 先となり、目標(18 年度末 150 先以上)を上回ることができました(17 年 3 月末同 86 先)。

また、地元で創業・新規事業展開を計画中的のお客様については東京都産業局・中小企業支援センター等の外部機関と情報交換を継続し、支援体制の多様化を図るとともに、創業期企業に対する職員の「目利き能力の向上」に努め、今まで以上に支援資金のご融資に力を注いで参りました。

(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

お取引先企業に対するコンサルティングについては、その機能・体制の充実を図っており「お客様サポートセンター」に対する相談件数は17年度312件となりました(16年度同234件)。

お取引先企業に対する経営支援については、お客様に一番身近な営業店支店長や経験豊富な本部スタッフがご相談に対応しております。このような取組みのなかで経営改善取り組み先のうち25先がランクアップをしました。今後も、経営改善を必要とするお取引先をサポートし、経営改善のお手伝いを行って参ります。

(3) 事業再生に向けた積極的な取組み

事業再生については様々なスキームが開発されており、金庫内だけではなく外部機関との連携・提携を行い、お取引先にとって最適な手法を選択できるよう努力を続けています。こうした取り組みにより、17年度は東京都中小企業再生支援協議会と連携した事業再生支援において着実な成果を上げたほか、新しい再生手法としてDDS(デット・デット・スワップ)を初めて導入いたしました。

(4) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等

新銀行東京と提携や中小公庫CLOへの参加を行い、担保保証に過度に依存しない融資の推進をしたことにより、お取引先の資金調達の道も広がり、十分な取扱い実績を上げることができました。今後とも資金調達の多様化を図るため、当金庫独自のスコアリングモデルによる融資商品有効活用を図っていくとともに、お客様のニーズに沿った商品を提供できる体制準備を進めて参ります。

(5) 顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化

最近様々な法改正が行われておりますが、こうした動きに迅速に対応するべく金庫所定の帳票類の改定と職員への十分な研修を行いました。また、融資先に対する金融商品勧誘時の適切性の確保にも努めました。

相談・苦情処理については早期対応と情報の共有が第一と考え、幅広く金庫内で共有化できるよう苦情事例集とその対応策を作成しその徹底を図りました。今後はデータベース化を推進することによりさらに改善を進めて参ります。

(6) 人材の育成

お客様に対し財務・税務面等のアドバイスができる人材や、高度な経営支援・企業再生に対する人材の育成のため、実践的な研修(OJT・集合研修)を実施するとともに、職員が自主的に参加する休日講座を開催し、多くの職員が受講しました。また、中小企業診断士の資格取得のため中小企業大学校へ職員を派遣いたしました。

## 2. 『経営力の強化』に関する取組方針

### (1) リスク管理態勢の充実

近年金融機関を取り巻くリスクは多様化・複雑化しており、当金庫ではこれらのリスクに対し適切な対応を行うため、統合リスク管理委員会の下、各リスク領域別の管理委員会を組成し統率ある管理体制を構築しています。今年度は、引き続きこうしたリスク管理態勢の充実に努める一方、平成 19 年 3 月末の新 BIS 規制の導入に備え各種リスクのデータ整備とシステム対応を開始しました。

こうしたリスク管理態勢の充実や収益力の向上に努めた結果、18 年 3 月末の自己資本比率は 8%に達する見込みです（17 年 3 月末同 7.38%）。

### (2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上

平成 15 年度よりスプレッドバンキング方式による収益管理制度を導入していますが、その定着から每期順調に収益を上げております。今年度は、信用リスクデータの整備とその収益管理システムへの取り込みについて検討を進める一方、営業店に対してインセンティブを付与した収益管理制度に取り組みました。

### (3) ガバナンスの強化

当金庫の半期開示資料である「朝日信金 17 年 9 月期レポート」においては「お取引先支援」、「CSR 活動」の項目について開示の充実を行いました。また、かねてより検討して参りました総代会の機能向上策については、お客様のご意見やご要望をこれまで以上に経営に反映させる観点から、新たな試みとして「業務報告会（仮称）」を 18 年度下期に開催することを決定しました。

### (4) 法令等遵守（コンプライアンス）態勢の強化

コンプライアンスの徹底は金融機関のみならず全ての企業に要請されているところですが、職員向けの研修・勉強会を引き続き行い、コンプライアンス意識の一層の定着に努めるとともに、今年度は特に職員間の相互牽制意識の向上とその実効性を高めるための様々な取り組みを行いました。

昨年から施行された個人情報保護法への対応としては各種の規定整備や職員の教育・研修を行い、個人情報の管理態勢の充実を図りました。さらに、個人データの紛失を回避するために、従来営業店で保管していたデータの一部を本部・センターでの保管に変更しました。

### (5) IT の戦略的活用

最近問題となっている偽造キャッシュカード問題への対応として、引き出し限度額の引き下げや IC カードの取扱いを開始しました。また、金庫からの情報漏えい対策として職員が使用する ID・パスワードの管理強化を徹底しました。さらには、IT の戦略的活用を行うために必要なネットワーク・インフラの強化を行ったほか、顧客・不動産データベースについても再整備を開始しました。

### 3. 『地域の利用者の利便性向上』に関する取組方針

#### (1) 地域貢献等に関する情報開示

当金庫が行っている地域貢献、社会貢献活動については、ディスクロージャー誌、半期開示資料において、社会的な関心が高まっているCSRの観点を踏まえて詳細な開示を行うように努めました。CSRに関する金庫の取り組みについては今後とも研究を続けて参ります。さらに、利用者の目線に立った分かりやすい情報開示を行うためホームページのリニューアルを行い、今後についてはお客さまから頂いた具体的なご意見・ご質問に関するコーナーを新設することも検討しております。

#### (2) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立

当金庫では10年以上前からCS活動の一環として「お客さま満足度調査」(CSアンケート)を定例実施していますが、17年度も上期に実施し、その調査結果等により窓口対応の改善を図るため「さわやか対応キャンペーン」を昨年12月から展開しました。なお、17年度のCSアンケートの結果を踏まえて実施した業務改善の内容については、この6月に当金庫のホームページに掲載する予定です。

お客さまのご意見を踏まえた業務改善や、ニーズに応える営業活動に努めた結果、この1年間の新規のお取引開始先数は、預金で9,452先、融資で3,939先となりました。

#### (3) 地域再生推進のための各種施策との連携等

事業者の方々のニーズにお応えするため、当金庫ではかねてより地域や地元の自治体との連携・協調を意識した営業施策に努めています。特に各区・各市の制度融資については積極的な取扱いを継続しました。また、文京区で新設された「商店会加入奨励資金」についても取扱い実績を上げることができました。

以 上